

スコアシート		基本設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境					0.40		-	3.9
1 音環境				2.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				1.0	0.50	3.3	0.50	
1 開口部遮音性能		住居:Dr-50を目標値に設定		1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				+	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				+	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				+	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				+	-	-	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	5.0	1.00	4.7
2.1 室温制御				3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温				3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		住宅部:住宅性能表示制度 断熱性能等級5相当を取得予定		3.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				+	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.8	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 昼光利用				3.6	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率		共用部:2.2% 住居部:3.3%		4.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				+	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		カーテン及びバルコニー庇の組み合わせで制御(住居部分)		2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用している		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				+	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				+	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				+	-	-	-	
2 喫煙の制御				+	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.0	0.40	4.2	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				+	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸Gbitクラスのブロードバンドが利用可能		+	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	+	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観				+	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				+	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	+	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	+	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-	
1 軀体材料の耐用年数		住宅性能表示制度 劣化対策等級3相当を取得予定		5.0	0.20	+	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	+	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	+	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	+	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用し、Eは不使用。		5.0	0.20	+	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	+	-	
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	+	-	
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20	+	-	
3 電気設備				3.0	0.20	+	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	+	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	+	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり		階高2.92mで計画した		-	3.2	0.50
	1 階高のゆとり	-	-	-	4.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-		-	3.0	0.50
	3.3 設備の更新性		-		3.0	1.00	-
	1 空調配管の更新性	-	-	3.0	0.20	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-		3.0	0.30	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	-	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮	-	-	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー	-	-	-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示制度 断熱性能等級5相当を取得予定	-	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.76	-	4.4	0.50	-	-	4.4
集合住宅以外の評価	-	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価	-	-	4.4	1.00	-	-	
4 効率的運用	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価	-	-	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル	-	-	-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護	-	-	2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水	-	-	1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	-	3.0	1.00	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	-	-	2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減	-	-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のデティールを採用している。	-	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	-	-	2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない壁紙用接着剤等を使用	-	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	-	-	2.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	-	1.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境	-	-	-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	CO2排出率=74%	-	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮	-	-	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	-	-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	-	3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	I 1) 駐輪場の台数:住戸の200%を確保。 II 2) 荷捌きスペースを敷地内に確保した。 II 3) 駐車場・駐輪場・歩行者の出入口を各々分離して計画した。	-	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	-	-	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	-	1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	-	-	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	○	-	○	-	○	-	○	-	-	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-							
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	2.0	-	2.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 軀体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-							
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	-	3.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	-	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	-		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)		窓システム	屋根
住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値 0.6

昼光率 3.3%

自然換気有効開口面積率 -

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	-	VA/m ²							
天井高	-	m							

1.1.2 高度情報通信設備対応

リフレッシュスペース	-	レストスペース	-
想定耐用年数	75 年		
想定必要間隔	-	年	
想定必要間隔	-	年	
想定必要間隔	-	年	
階高	2.92 m		
壁長さ比率	-		
床荷重	-	N/m ²	

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 軀体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 軀体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指標	-	建物緑化指標	-
空地率	-	水平投影面積率	-

BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	等級5相当
自然エネルギー直接利用量	-	MJ/年 m ²	採光を満たす住戸数
			通風を満たす住戸数
			太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
BEI/BEIm	再エネ有	- 無 -	オフサイト再エネ有 - -
一次エネ削減率	再エネ有	24%	無 24%

雨水利用率	-
特定調達品目	-
使用比率	-
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)

見付面積比	-	隣棟間隔指標Rw	-
地表面対策面積率	-	屋根表面対策面積率	-
見付面積Sb	-	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	m 基準高さH _b m
緑地 m ²	水面 m ²	保水性対策面 m ²	高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²